

令和7年度 第1回宇和島市発達支援連絡会 会議概要

【開催日時】

令和7年7月10日（木） 13:30～15:00 ※対面で開催

【開催場所】

宇和島市発達支援センター 研修室

【出席者】

委員12名（2名欠席）

事務局5名

【内容】

委員及び事務局挨拶

議事 ①発達支援センターの今年度の取組について

②早期発見・早期対応等の支援について

③意見交換

【会議経過】

1 開会

事務局より配布資料確認

協議内容の公開について

2 主催者あいさつ（福祉課長）

3 議事 進行：委員長

①発達支援センターの今年度の取組について

「令和7年度 第1回宇和島市発達支援連絡会事前配布資料Ⅰ（スライド番号1-7）」にそって、発達支援センターの今年度の取組について事務局より説明

（説明者：上杉発達支援センター長）

②早期発見・早期対応等の支援について

「令和7年度 第1回宇和島市発達支援連絡会事前配布資料Ⅰ（スライド番号8-21）」にそって、「早期発見」「早期対応」について共通理解を図り、取組の方向性や方法について共有。第1回ワーキング部会について報告。

（説明者：豊岡専門員）

③意見交換

議事②「早期発見・早期対応等の支援」について、事務局の取組の方向性やワーキング部会についてご意見を伺う。

それぞれの立場からみた意見や、検討していくための他の視点などがあれば出していただく。

委員：家庭と園で子どもの様子に違いが見られる場合、保護者と園が密にコミュニケーションをとることで取り組みやすい状況をつくることにつながる。困っているのは誰かを考え、支援の中心を本人に捉えることで、保護者が主体的に動きやすくなり、園との連携も円滑に進むのではないかと。子ども目線で考えてもらえるとよい。

委員：幼稚園では、子どもの様子から小学校進学後の困難が懸念される場合、日々の生活状況等を保護者に伝え、巡回相談や5歳児健診の受診を勧めることがある。しかし、家庭で困りごとを感じていない保護者も多く、健診後の支援の流れが不明瞭であることが心理的負担になっているようだ。支援の流れやそこに関わる専門家の役割を分かりやすく整理した情報を提供することで、保護者の不安を軽減し受診や支援へのハードルが少しでも下がるのではないだろうか。また、保育者が保護者に働きかける際には、伝え方への配慮が必要であり、緊張感を抱くこともある。

委員：5歳児健診は国の方針として全員実施が示されているが、当市ではキャパシティや人材不足から全員に問診票を送付し、その後保護者の希望による受診方式をとっている。国が勧めている全員実施の方法として、就学前施設で実施される内科検診などと合わせて実施する形式は未だ多くの市町で導入されていない状況。

また、保健師は新任期職員が多いため、班体制で対応している。子どもの支援では保護者も支援者も「健やかな育ち」を共通目標としており、健診では特性を見つけるだけではなく、就学（今後）に向けて必要な支援を検討する場としている。健診を通じて子どもの育ちについて「良い」「悪い」を評価するのではなく、周囲が寄り添い育ちをサポートする取り組みが重要。多様な育ちを認め合い、子ども一人ひとりが持つ個性を尊重しながら、周囲が子どもの育ちに合わせて柔軟に対応していけるような支援を目指している。

委員：特別支援連携協議会は、特別支援教育コーディネーターや行政、福祉など関係機関が参加し、横のつながりの強化と就学前から高校までの縦のつながりの強化に重点を置いている。特に中学から高校への移行について課題が多いと感じており、特別支援連携協議会としては今年度、縦のつながりをさらに強化することに取り組んでいる。子どもたちをどう見守り、どう寄り添っていけるかを意識し、進学や移行における切れ目ない支援を目指す。また、早い段階での困り感への対応や早期発見の重要性を認識し、適切な支援を提供する体制を整えていく。各校のコーディネーターの支援についても進めていく。

委員：本人だけでなく、家族が不安を話し、受け止めてもらえる場が必要だと感じている。また、ライフステージにおける人や環境の変化も鑑み、相談が特定の人に限定されない仕組みを構築し、いつも相談できる窓口の存在があることを知ってもらうことが大切だと感じる。

早期発見を通じて本人や家族が適切な支援者やしくみにつながり、育ちの過程で多様な状況に対応できる方法を支援してもらうことで、二次障がい予防につながる。その中で特に必要な力が「相談する力」と考える。また、成人の方が発達検査を受けるために受診される事もあるが、検査を受けて終わる事が多い。

委員：「障害者就業・生活支援センターきら」は、障がい者の就労支援と就労に伴う生活支援を中心に行っている。幼児期からの関わりはほとんどなく、宇和特別支援学校や一般高校からの就職相談も受け付けている。相談者の多くは診断を受けている方だが、就業課題が手帳を持っている疾患以外の発達面での問題に起因する場合には受診のサポートをすることもある。

特別支援連携協議会高校部会にも参加しており、中学から高校への支援の移行には課題があるよう。高校進学者の保護者や本人の許可が得られず、個別の教育支援計画が途切れることにより支援が継続されず、特に卒業後の就職時に困難に直面することが多い現状がある。高校1年時より就職を見据えた支援を開始するケースもある。

委員：どこにスポットを当てどこに視点を置いたらよいか。義務教育の9年間では早期支援やつなぎがある程度できているが、就学前から小学校、中学校から高校への移行の部分で課題があり、教育委員会や現場でも難しさを感じている。

近年、生徒指導の問題と発達障がい特性が絡むケースが増加しており、子ども自身の特性が状況を悪くしていることを、なかなか理解してもらえない事もある。学校側は最大限の支援を提供しようとしているが、さらに強い要望が寄せられたり、別のトラブルが発生したりすることもあり、現場がその対応に苦慮するケースが多い。また、子どもや保護者に関係機関とどのように連携していただくかにも学校が苦慮している。子どもの状況や保護者の意見が合意形成において最重要であるが、学校が最大限配慮して対応していることを理解していただき、合理的に対処してもらえるとありがたい。教育委員会も最大限の支援ができるようにしたい。

委員：現在、わかたけには中学生を中心に特性を抱える生徒が多く通室しているが、宇和島圏域の1市3町すべての子どもを幅広く受け入れている。「特性を抱える子どもが多く通っている」という情報だけが広まることで、他の保護者や一般の子どもたちに誤解を与える可能性を懸念しているため修正が必要と考える。

スタッフには専門性や経験のある職員がおらず、これまでの経験や流れに基づいて受け入れを行っている。受け入れに関しては、宇和島圏域の1市3町が対象地域であること以外に特別な条件や制限は設けていない。特別なことだけで対応しているのではないことをご理解いただきたい。

事務局：本日のテーマは「早期発見・早期対応」

委員の方々に早期発見・早期対応のイメージを持っていただきたく、資料を作成。

今日だけでも課題がいくつかあったと思う。今後の連絡会でこれらの課題について取り組み方を検討、報告する。

4 その他

- ・ワーキング部会を今年度残り3回開催予定（まずは就学前の子どもに関わる機関）
- ・第2回発達支援連絡会は2月に2回目を開催予定。
- ・7月13日 発達障がい児者親の会 こころ根っと・ゆうきの会 発達支援講演会案内
- ・11月5日 宇和島圏域における発達支援体制の構築のためのネットワーク会議開催予定。

5 閉会